

# 全国ネット通信

Vol.17  
2015  
冬号

平成27年1月1日発行

## 2015年を迎えて 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット理事長 長谷川 公一

新年おめでとうございます。2015年、平成27年の幕開けです。第2次世界大戦の敗戦からちょうど70年の年になります。

昨年2014年は、宝塚歌劇100年、東京駅開業100年、漱石の「こころ」連載100年、第1次世界大戦の開戦から100年などが話題を呼びましたが、1915年(大正4年)は国内外ともに比較的地味な年だったようです。

2014年はウクライナ情勢の悪化によって、1989年の「ベルリンの壁崩壊」前後からの「冷戦終焉」ムードから一転して、ロシアとアメリカやEU諸国との間の政治的緊張が高まりました。10年後、20年後に振り返ったときに、あの頃が分岐点だったね、と想起されるような歴史的転換点に私たちは立っているのかもしれません。

想像してみましょう。2015年に生まれる命は、2030年に15歳に、2050年に35歳を迎えます。2080年には65歳の高齢者に、2100年には85歳を迎えます。若い世代や新しい命にとって、21世紀後半は、集中豪雨や異常気象の頻発、農作物の適地の北上、新しい流行病との闘いなどの形をとって、気候変動は、日々突き付けられるきびしい現実となっているかもしれません。

2015年11月末からパリで開催されるCOP21で、2020年以降の気候変動・温暖化対策の大枠が合意されることになっております。2015年は、気候変動問題にとっては、きわめて重要な勝負の年となります。ペルーのリマで開かれたCOP20では、日本政府は、2020年以降の削減目標をいつまでに提示できるのかを明言できず、国際的な批判を受けました。EUは、2030年に90年比で少なくとも40%という削減目標を提示しています。日本も、積極的な削減目標を早期に提示することが求められています。

福島第一原発事故を、気候変動問題に関する消極姿勢の口実にすることは国際的に通用しません。積極的な削減目標に向けて、国内世論を高めていくためにも、地域に根ざした、私たち温暖化防止活動推進センターの地道な活動が、今こそ大きな意義を持っています。

末筆ながら、本年のみなさまのご多幸をお祈りいたします。



## 年頭のごあいさつ 環境省 地球環境局長 梶原 成元

新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会員各位におかれましては、平素から地球温暖化防止行政に対する御理解と御協力、地域における地球温暖化防止活動に特段の御尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、昨年12月5日に開催された「中央環境審議会、産業構造審議会合同専門家会合」においては、近年二酸化炭素排出量が増加している民生部門の排出量削減について議論され、「地球温暖化国民運動」をはじめとした民生部門対策をしっかりと推進するよう、多くの意見がなされたところです。

そういう意見を踏まえ、環境省といたしましては、各地域で民生部門の二酸化炭素削減に尽力されている地域センターの皆様の活動と更に連携を強化して参る所存です。地域センターの事業として温対法に位置づけられた活動を始め、「コンソーシアム事業」や「家庭工コ診断事業」等の様々な事業について、今までにもまして積極的に取り組んでいただくことを期待しております。

一方で、上記専門家会合において、国民運動をはじめ広く国民を対象とする事業は、二酸化炭素の削減効果の定量化は難しいとの認識に立ちながらも、今後は二酸化炭素の削減効果について定量化し、コスト意識を持ってPDCAを確実に行うことも重要であるとの議論もなされました。環境省も全国センターと協力しながら、事業評価方法の検討等、地域センターの皆様の活動をサポートして参りますので、地域センターの皆様におかれましても、事業の更なる効率的・効果的な実施に取り組んでいただければ幸いです。

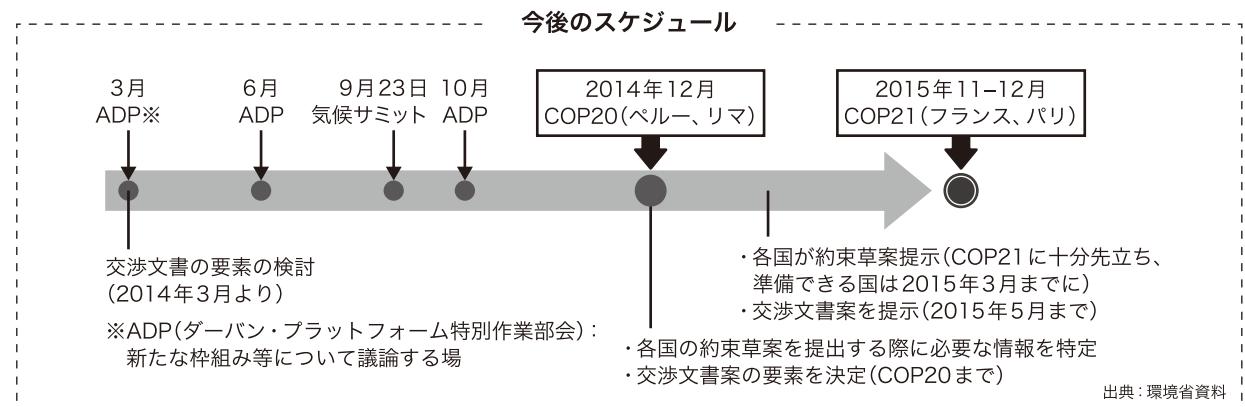
結びに、地域センターのますますの御発展を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



# COP20現地レポートをリアルタイムに発信！

2014年12月1日から12月12日まで、ペルーの首都リマで、気候変動枠組条約第20回締約国会議(COP20)、京都議定書第10回締約国会議(CMP10)が開催されました。

現在、2015年のCOP21での採択に向け、全ての国が参加する2020年以降の温室効果ガス排出削減の新たな枠組みについて国際交渉が進められています。COP20では、2015年のCOP21に先立って(準備のできる国は2015年第1四半期までに)提出を招請されている約束草案を提出する際に示す情報の内容等を定めるCOP決定(「気候行動のためのリマ声明」(Lima Call for Climate Action))が採択されました。



写真：JCCAウェブCOP20特設ページより 久保田泉氏撮影



JCCAホームページでは、COP20特設ページを開設し、国立環境研究所社会環境システム研究センターの久保田泉氏のご協力のもと、現地レポートを掲載しました。現地リマでの熱い様子を、図や写真を交えて開幕からまとめまで12回にわたってわかりやすく伝えています。国際交渉の最新の現場を、ぜひご覧ください。

JCCA COP20 検索

# IPCC リポートコミュニケーター全国に約240名誕生

環境省の「平成26年度地球温暖化影響の理解及び国民に向けたライフスタイル変革の促進運動事業」の一環として、温暖化への理解促進を図るための「IPCC第5次評価報告書(IPCCAR5)等伝えるプログラム事業」が実施されました。

この事業は、IPCC第5次評価報告書や地球温暖化を、一般の方にわかりやすく伝える「IPCC リポートコミュニケーター(以下、コミュニケーター)」を認定し、このコミュニケーターがメディアや全国各地でのセミナー等の場面で、人々に、地球温暖化に関する情報を正しく伝えていくことを目的としています。今年度は、全国6か所で、「IPCC リポートコミュニケーター養成セミナー」を開催しました。7月に関東からスタートした養成セミナーも12月の広島でのセミナーを最後に無事終了。登録者数は、昨年度からの継続の方と合わせて、約240名となりました。今後は、コミュニケーターとなられた方々が、全国各地の学校・イベント・セミナーなど様々な場で、活躍されることが期待されます。

本事業で制作された伝えるためのツール(パワーポイント、映像、実験道具など)は、IPCCAR5を伝えるのに欲しかったものだと、各地のコミュニケーターから高い評価を得ています。ただ、どんなにすばらしいツールがあっても、使い手(コミュニケーター)が、どのように使い人々に伝えていくかが重要です。今後、新規のコミュニケーターの養成に加えて既存のコミュニケーターのスキルアップに向けた研修も重要なと考えます。



実験「2°Cまでピンポン」2°C上がるまであとどれくらい? 実験「生活ボックス」どこでエネルギーを使っているのかな?



# 「きて・みて・つながる 低炭素杯2015」来場者募集開始！

2015年2月、北海道から沖縄まで、全国から選び抜かれた地球温暖化防止に取組むファイナリスト(学校・企業・NPO)39団体が東京ビッグサイトに大集結する「低炭素杯2015」が今年も開催されます！

4分間のステージ発表で成果を競い、温暖化防止活動の日本一を決定します。

全国各地域の地球温暖化対策のモデルとなる取組を知り、交流していただけるまたとない機会です。環境大臣賞に輝くのはどの団体か、気候変動に挑む全国の知恵と技をその目でぜひご覧ください。

また、「オーディエンス賞」受賞者を決めるゲスト審査員も募集中です。

皆様のご来場を心よりお待ちしています。

**日 程** <1日目>2015年2月13日(金)12:30～17:00(11:30開場)  
<2日目>2015年2月14日(土)13:00～16:00(12:00開場)

**会 場** 東京ビッグサイト 7F国際会議場(東京都江東区有明3-11-1)

**入場料** 無料

**主 催** 低炭素杯実行委員会(事務局：地球温暖化防止全国ネット内)

**プログラム** <1日目>12:30～17:00  
開会、ファイナリスト39団体によるステージ発表  
<2日目>13:00～14:30  
【同時開催】特別シンポジウム(パネルディスカッション)  
14:45～16:00  
表彰式、閉会



低炭素杯2014(昨年度)のプレゼンの様子



＜来場希望の方はこちら＞

低炭素杯2015ウェブサイト内『来場者募集』ページの

入力フォームよりご登録ください。2015年2月8日(日)17時〆切

低炭素杯2015

検索

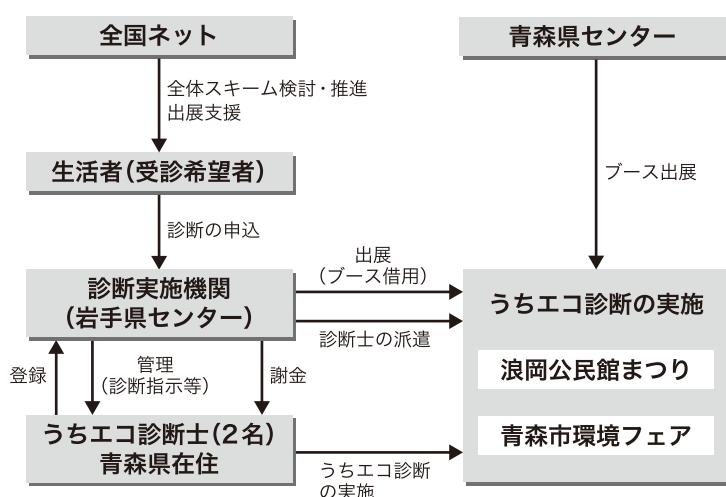
## うちエコ診断受診対応拡大への取り組み

12月10日現在、うちエコ診断実施機関の認定団体数は64団体となり、診断予定件数も8,427件まで拡大しました。引き続き、認定に関する問い合わせがあり、今後まだ増える見込みです。

このような状況下、全都道府県でうちエコ診断が受診できる体制の構築を進めてきました。青森県では、青森県在住のうちエコ診断士を岩手県センターに登録し、青森県下のイベントで受診者を募集するとともに診断士の派遣と診断を実施しました。

うちエコ診断は、「浪岡公民館まつり(11月22日～23日)」と「青森市環境フェア(12月21日)」の2つのイベントで実施し、合計20件の診断を行いました。受診者の方からは「ウイークポイントは感じていたが、診断でもその点の対策をすすめられたので実行したいと思う」や「冷蔵庫、給湯、照明等、聞いたかった点が聞けて満足した」等の感想をいただきました。

### 青森県うちエコ診断実施スキーム概要



浪岡公民館まつりでの診断の様子



青森市環境フェアでの診断の様子

うちエコ診断に関する詳細はこちら

うちエコ診断

検索

# エコプロダクツ2014 様々な『エコの知恵』を紹介！

2月11日～13日に東京ビッグサイトで開催された環境展示会「エコプロダクツ2014」に「全国のエコの知恵、ここにあり」をテーマに出展しました。地域地球温暖化防止活動推進センターの環境教育教材ツールの展示、地球温暖化防止活動環境大臣表彰の平成26年度受賞団体の紹介、各地で行われている温暖化防止活動（コンソーシアム事業）の紹介など盛りだくさんの“エコの知恵”を紹介しました。

会場内エコツアー「日本・エコビジネス」のコースポイントとして、3日間で約150名の方が訪れ、ツアーガイドの説明に耳を傾けていました。

なお、3日間を通して、全国の地域センター、地球温暖化防止活動推進員をはじめ、お世話になっている方々がブースに訪問してくださり、交流を深めることができました。



## 編集後記

昨年末に気象庁が、2014年の世界の年平均気温が、過去最高になる見通しと発表したことはみなさんご承知のことだと思います。気象庁は、世界の年平均気温が最高になったことについて、「地球温暖化の影響のほかに、夏からエルニーニョ現象が発生したことが要因と考えられる」と分析しています。

今から30年ほど前に大学（海洋工学科）の授業でエルニーニョ現象を習った時には、エルニーニョ現象・ラニーニャ現象なんて回りは誰も知らなかっただし、当時は地球温暖化といった言葉も聞かれませんでした。（パブルのころです。）

授業では「エルニーニョ現象が起きると、日本では豆腐が値上がりする」と教えられました。もちろん、基本的には海洋物理の授業でしたが、影響としては経済の話として説明を受けました。（エルニーニョ現象が起こる→ペルー沖でカタクチイワシが取れなくなる→アメリカで、家畜の飼料であるカタクチイワシの代わりに、大豆が使われる→大豆が不足する→日本への大豆の輸入量が減る→日本国内の大豆価格が高騰する→豆腐が高くなる！）

今では、地球温暖化やエルニーニョ現象などは、小学生も知っていることがあるようです。

いずれにしても、温暖化防止は待ったなしの状況にあります。次の世代の社会に何が残せるかを考えながら、みんなで低炭素社会の構築ができればと思います。

本年もよろしくお願いいたします。

事務局長 川原 博満

# 平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰 今年度の受賞者は38件！

当法人が事務局を務めた、平成26年地球温暖化防止活動環境大臣表彰の表彰式及び受賞者フォーラムが、12月3日イイノホール＆カンファレンスセンターにて執り行われました。

全国各地の温暖化防止に資する、様々な主体の個性的な取組の中から、今年度は38件の個人及び団体が受賞者となり表彰式の授与を受けました。



今年度の受賞者及び活動内容、式典の様子などはウェブサイトにて掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰 [検索](#)

エコアナウンサー

## 櫻田彩子のミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール

Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。  
テレビ朝日「ゆうゆう散歩」レポーターほか、  
「低炭素杯」の司会などを。



秋冬はエコプロダクツ等、環境イベントが盛りだくさんですね。皆さんもいくつも参加なさったのではないでしょか。私も、地球温暖化防止・生物多様性・再生可能エネルギーについて新しい学びを得た時期でした。いろいろな所で、主催者や参加者が望むのは「同じ志を持った違うセクターの方々との繋がり」です。それによっていかに使命を実現できるかを考え、また連携や協働によって相乗効果を高めビジネス化の道を探っています。そしてそこに必ず、楽しみや喜びがあるということも共通しています。

お！待てよ。回を重ねてきた低炭素杯にはそれがあります。低炭素杯で出会った人達の連携や支援はすでにいくつも形になっています。出会いや繋がり、感動を求めるあなた、来たれ！

私もお腹の子と二人で司会として、お待ちしています！



寒さに負けず元気に！



一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの  
活動をサポートしてください！

年会費：個人会員 1口 5,000円(1口以上)

団体会員 1口 20,000円(1口以上)



## 編集・発行



一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 第一アマイビル4階

TEL : 03-6273-7785 FAX : 03-5280-8100 <http://www.zenkoku-net.org/>

